

2016年度事業報告

I. 2016年度事業方針

食文化研究者の発掘・育成と研究の場の継続的提供により、研究の更なる発展・拡大を図り、成果・知見の外部への体系的発信を通じて、食文化への関心を喚起し、理解を深める。

II. 2016年度事業報告

1. 食の文化フォーラム

(1) 2016年度食の文化フォーラム開催：年間テーマ「甘みの文化」

コーディネータ：山辺規子（奈良女子大）、総合司会：南直人（京都橘大）

第1回セッション「甘みへのあこがれ」（2016/6）

第2回セッション「甘みの進化」（2016/9）

第3回セッション「甘みの魔力」（2017/3）

(2) 2015年度食の文化フォーラム開催記録本「人間と作物」刊行（2016/9）

2. 食の文化シンポジウム

(1) 人間文化研究機構共催シンポジウム（10/15）テーマ：「和食文化の多様性-日本列島の食文化を考える」

① 構成 基調講演 「ユネスコの無形文化遺産に登録された和食文化とはなにか」／熊倉功夫

プレゼンテーション1 「儀礼の展開と和食」／山田慎也

プレゼンテーション2 「アイヌの食と交易」／斎藤玲子

プレゼンテーション3 「琉球の食文化」／木部暢子

プレゼンテーション4 「だし（出汁）からさぐる和食の粋-海藻・魚・家畜」／秋道智彌

パネルディスカッション 司会／佐藤洋一郎、パネリスト／上記発表者5名

② 参加者：205名

③ 各地で育まれた和食文化の多様性について、講演者、パネリスト及び会場の参加者を交えて、和食文化に関し活発な議論。

(2) 食の文化フォーラムシンポジウム（11/26）テーマ：「栽培化と家畜化～食べていくための人類の選択」

① 構成 基調講演1 人間と動物 ～多様な関わり方の行く末 池谷和信 国立民族博物館

基調講演2 人間と作物 ～農のジレンマを越えて 江頭宏昌 山形大学

鼎談 コーディネータ 中嶋康博 東京大学 パネリスト／上記2名

② 参加者70名

③ 対象者を若手研究者、学生、食と農に関心のある方を中心に集客。専門分野の視点で活発な質疑。

3. 食の文化研究助成

食文化研究の裾野を拓げるべく、若手研究者の育成に向けて助成を再開。

① 募集期間（9/1～10/15）合計49件の応募受付。

② 選考委員へ書類審査（10/31～11/25）、選考委員会を開催（12/7）し助成候補8名選定。

理事会（1/26）において、選考結果に基づき助成対象者8名及び助成金の支出（総額7百万円）を決定。

③ 贈呈式開催（3/3）、採択者の助成手続き終了。4月より研究開始。

4. 食の文化ライブラリー

① 公開図書館実績

- ・ 来館者数 5,655 人 (対前年同期比 91.3%)
- ・ 貸出人数 2,398 人 (対前年同期比 91.2%)
- ・ 貸出冊数 7,711 冊 (対前年同期比 97.3%)

② 国文学研究資料館による蔵書の電子化(2016/3)、日本古典籍総合目録データベースに収載。

5. 食の文化誌「vesta」

① 2016年度発行実績

- ・ 第103号「カフェという別世界」 太田心平 国立民族博物館 2016年7月発行
- ・ 第104号「日本と世界の学校給食」中澤弥子 長野県立短大 2016年9月発行
- ・ 第105号「宗教的タブーとおもてなし」阿良田麻里子 立命館大学 2017年1月発行
- ・ 第106号「酒と食」 高田公理 武庫川女子大 2017年4月発行

② 他事業との連動強化：財団コーナーを設け、各事業内容の紹介等積極的に実施。

6. 食の文化ウェブ

- ① ホームページ 食文化情報サイトとして研究助成コンテンツを新たに作成し、応募要項を掲載。
- ② メールマガジン 購読者の拡大・誘引を継続。
- ③ SNS 食文化情報の更新頻度向上により情報鮮度を維持し幅広く広報活動を実施。

以上